

《2021年3月（通算293回）月例会報告》

東京都におけるU-18フットサルの20年 —過去・現在・そして未来に向けて—

【日時】2021年3月13日（土）16:00～18:00（終了後はオンライン懇親会）

【会場】オンライン（Zoom）

【テーマ】東京都におけるU-18フットサルの20年—過去・現在・そして未来へ向けて

【演者】中塚義実（TFAフットサル委員会第2種部会長／NPOサロン理事長／筑波大学附属高校）
徳田仁（TFAフットサル委員会第3種部会長／NPOサロン理事／㈱セリエ）ほか

【参加者（サロンファミリー）】小松章一（行政書士/TFAフットサル委員会運営スタッフ）、橘和徳（富山中部高校）、田島璃子（早稲田大学1年）、茅野英一（帝京大学）、※徳田仁（㈱セリエ）、
※中塚義実（筑波大学附属高校）、

【参加者（未会員）】※有吉朋喜（Futsal Club BUBBLE）、※石井智（錦城高校）、角脇拓也（東京都サッカー協会事務局）、田中望（東京都市大付属高校フットサル部）、松村圭祐（東海道品川宿U-18）
山野達也（ASV PESCADORA町田U-18）、羽賀健太（クラーク記念国際高校）、速水高志（筑波大学附属高校）、平野・〇〇・△△（錦城高校2年）

※はTFAフットサル委員会ユース（2種・3種）部会メンバー

【概要（理事長より）】 注）月例会案内より引用

いまでもU-18年代のフットサルにはJFA主催の全国大会があり、各都道府県で独自の大会やリーグが整備され、リーグチャンピオンが集う大会がNPOサロン主催で開かれています。その原点となるのは、2001年8月に小金井市総合体育館で開かれた「第1回東京都ユース（U-18）フットサル大会」です。

（公財）東京都サッカー協会（TFA）が主催事業としてU-18年代のフットサルに取り組みを始めて今年度で20周年となりました。あいにく今年度はTFA主催のすべてのU-18大会が中止となる「歴史的」な年となりましたが、節目であることに変わりありません。10周年のときにはシンポジウムと記念誌を発行しましたが、今回、集まつのシンポジウムは開くことができません。そこでNPOサロンのオンライン月例会として20周年記念行事を開催します。

取り上げる内容は次の通りです。

1. 東京都におけるU-18フットサルのあゆみ
2. 東京から全国～世界へ
3. 女子のフットサル
4. 「Withコロナ」から「Afterコロナ」へ—これからのU-18フットサル（ディスカッション）

【月例会報告】田島璃子、中塚義実ほか

本日の位置づけと進行 (中塚義実)

(公財) 東京都サッカー協会 (TFA) のU-18フットサル大会が2020年度で20年を迎えます。

10周年の時には駒沢陸上競技場の会議室でシンポジウムを行い、記念誌を発行しました。今年も同様の企画をしていましたがコロナ禍で集まることができません。それでも記念誌は作ります。記録集です。

ただ単に記録を集めるだけでなく、この20年を振り返るイベントを開き、情報を共有したいところです。そこで、NPO法人サロン2002の月例会のかたちで開催することになりました。

この法人は「スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”」を“志”に掲げ、1997年度からほぼ毎月、月例会を行っており、2014年度にNPO法人化しました。東京のフットサルの関係でいうと、理事長の中塚はTFAフットサル委員会第2種部会長を務め、第3種部会長の徳田さんもNPOサロンの理事です。また、1月に全国大会「U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ」を、totoの助成を受けて毎年主催しています。このように、U-18年代のフットサルとのつながりの深い組織でもあるので、サロンの月例会のかたちで開くことにしました。

本日の進行案です。

まずはフットサルのあゆみを大きなところから振り返ります。U-18リーグについては有吉さんにご報告いただきます。

次にこの10年の動きです。東京から全国、そして世界へということを取り上げ、さらに女子のフットサルについても取り上げます。最後に全員でディスカッションの時間を設け、2時間ノンストップで進めたいと思います。

本日の進行案

1. 東京都におけるU-18フットサルのあゆみ (16:05~16:40)
 - 1) 二つの都内完結型大会 (中塚)
 - 2) 全国大会につながる大会 (中塚)
 - 3) U-18リーグ (中塚・有吉)
2. 東京から全国~世界へ (16:40~17:10)
 - 1) JFA主催大会、JFF主催大会 (中塚)
 - 2) NPOサロン主催「U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ」 (中塚)
 - 3) 韓国遠征と選抜チーム (徳田・有吉)
 - 4) フリーガー~日本代表に羽ばたいたプレーヤー (中塚)
3. 東京都における女子のフットサル (17:10~17:40)
 - 1) 女子ユースフェスティバルとSHIBUYA109 (中塚・角脇・石井)
 - 2) U-18女子リーグ導入へ向けて (速水)
4. 「Withコロナ」から「Afterコロナ」へ
ーこれからのU-18フットサル(ディスカッション) (17:40~18:00)

3

I. 東京都におけるU-18フットサルのあゆみ (中塚義実)

1. 二つの都内完結型大会

ー東京都フットサルチャレンジU-18と東京都ユース (U-18) フットサルフェスティバル
釈迦に説法かもしれませんが、フットサルそのもののあゆみをざっと振り返っておきたいと思います。

ざっくり言うと、世界各地にミニサッカーがありました。それを国際サッカー連盟 (FIFA) が1994年にフットサルに統一します。そしてその翌年、国内では各都道府県にフットサル担当者を置くという流れになります。だからそんなに長い歴史があるわけではありません。

(公財) 日本サッカー協会 (JFA) がフットサルへの取り組みを始めた当初、少年の大会に加え、中学生の大会と大人の大会が新設されました。しかしU-18年代は当初から大人のカテゴリーに含めて考えられ、大会はありませんでした。本当はもっといろんな背景がありますが、ここは省略します。

TFAフットサル委員会は1995年に設置され、初代委員長は小野剛さんでした。名前を聞いたことのある方は多いですね。日本代表のコーチやJクラブ監督を務められ、JFAやAFC、FIFAの技術畑の仕事を長くされている方です。彼は当時成城大学の教員で、初代委員長となりました。2代目は事務局局長兼務で清水眞さん。1997年からは梶野政志さんが長らく務められます。今日は同時刻に東京都フットサル連盟 (TF F) の理事会があるのでそちらに出ておられます。2016年からはいまの松村栄寿さんが委員長です。ちな

みに私はTFAフットサル委員会創設当初から委員を務める唯一のメンバーです。徳田さんも相当早い段階から属していました。

部会が少しずつでき、高校生年代の第2種部会も誕生します。しかし高校生年代の事業はしばらくありません。その間、徐々に全国的な制度が作られていきます。TFFは2003年度に設立しました。

「フットサル」の誕生	TFAフットサル委員会の発足と展開
◆1863年 FA創設 ...近代スポーツとしてのサッカーの誕生 ◆1904年 FIFA創設 ...世界のサッカーの統括団体 ◆1930年 第1回FIFAワールドカップ開催 世界各地に「ミニサッカー」があった ◆1989年 第1回ファイブ・ア・サイド・フットボール世界大会 ◆1994年 FIFAが、「ファイブ・ア・サイド・フットボール」を「フットサル」に変更 JFAが、「ミニサッカー委員会」を「フットサル委員会」に変更 ◆1995年 JFAが、各都道府県に「フットサル担当者」を置くよう指示 3つの全国大会を開催 ・全日本少年フットサル大会(既存の大会) ・全日本ジュニアユースフットサル大会(新設) ・全日本フットサル選手権大会(16歳以上)(新設) * U-18年代は当初から、大人のカテゴリーに含めて考えられていた	◆1995 東京都サッカー協会(TFA)にフットサル委員会設置 初代委員長は、小野剛氏(1995) 第2代委員長は、清水真氏(TFA事務局長と兼務 1996~) 第3代委員長は、梶野政志氏(1997~2015) 第4代委員長は、松村栄寿氏(2016~現在) ◆フットサル委員会に第2種部会設置 第2種担当者 → 第2種部会 ただし第2種としての事業は、しばらくはなかった ◆フットサルの登録制度と連盟の設立 1996 フットサル大会登録制度(大会ごとにチーム編成) 1998 東京都フットサルリーグ(固定チームで年間リーグ) 2003 東京都フットサル連盟(2000年度より議論開始) 同 フットサル個人登録制度

このあたりから徐々にU-18フットサル大会の話になります。2000年度のTFAフットサル委員会でこんな議論がありました。民間フットサル施設で高校生がいっぱいプレイしている。サッカー部から弾かれた者や入れなかった者などです。それから、いくつかの学校でフットサル同好会ができています。私が勤務する筑波大学附属高校でも校内フットサル大会がはじまりました。学校フットサルも、仕掛ければ広まる可能性があるということです。一方で、高体連のサッカー大会をみると人数不足で出場できないチームが増えてきました。11人が無理でも5人ならできるんじゃないか。

U-18フットサル大会創設の経緯	TFF(サッカークラブ主催の校内フットサル大会)
それは2000年度末、TFAフットサル委員会の議論から始まった ◆「都内の民間フットサル施設で、高校生が大勢プレーしている」 → 潜在的なフットサル人口の存在 ◆「いくつかの学校ではフットサル同好会ができています」 ・筑波大学附属高校サッカー部に「フットサル部門」創設(1997) ・同校において校内フットサル大会(TFC杯)開始(1998) → 学校におけるフットサルの可能性 → 仕掛ければ広まる! ◆「高体連のサッカー大会で、 人数不足により参加できないチームが増えてきた」 → 11人は無理でも5人ならサッカーとの共存・共栄 ★2001年度事業として、夏にU-18フットサル大会を開催しよう! ★「東京都ユース(U-18)サッカーリーグ(仮称)」と連動させよう!	

このような背景のもと、2001年度事業として、夏にU-18フットサル大会をやろうということになります。ちょうどその頃、高校生年代のサッカーリーグの整備にも取り組んでいたもので、これと連動させようと考えました。

上右の写真は、筑波大附属高校の昼休み、サッカークラブが主催する校内フットサル大会の様子です。残念ながら最近では行われていません。コロナだからではなく、高校生の意欲と運営能力の低下によるものです。残念です。

2001年の夏、第1回東京都ユースフットサル大会、冠に「第51回社会を明るくする運動」がついて初のU-18フットサル大会が開かれました。この冠がつくことによって、小金井市総合体育館を使わせてもらうことができました。最初のころは体育館を確保するのも大変でした。

やってみるとなかなか良いぞということで冬もやることにし、1月に東京都フットサルチャレンジU-18という名称で実施しました。夏の大会の方がどちらかというとチャレンジ的な性格が強いので、2002年度からは夏と冬の大会名を入れ替え、いまに至ります。2002年といえばFIFAワールドカップがありましたよね。

その後も毎年、夏と冬の、都内完結型の大会を行ってきました。下の写真は2007年1月の第6回東京都ユース(U-18)フットサル大会の様子です。左は「東洋の魔女」が1964年に優勝した駒沢屋内球技場。いまは改修されてきれいになっています。懐かしいですね。右は筑波大附属高校の体育館。東京都のユース年代のフットサルの“聖地”です。



U-18大会をはじめてどうなったのか。はじめの頃は「やんちゃな奴らが多様なチームで参加する」イメージです。自制心もなく、負けたら壁を蹴っ飛ばすことはしょっちゅうありました。トラブルも山ほどあったのですが、そういうことも含め、青少年の大会なので責任能力のある大人にちゃんとついてもらうことに、最初からこだわりました。別に学校の先生でなくて構いません。クラブが認めた大人であればいい、そのかわり責任をもって青少年を指導してくださいということです。

やっているうちにだんだん学校のフットサル部や同好会、地域のフットサルクラブが増え、レベルアップしてきます。冬の大会には、サッカー

東京都FA主催 U-18公認フットサル大会(最初の2年間)

■2001年度

夏...第1回東京都ユース(U-18)フットサル大会

- ・初心者でも参加でき、最後まで楽しめる競技会に!
- ・「第51回 社会を明るくする運動」事業として開催

冬...第1回東京都フットサルチャレンジ(U-18)

- ・サッカークラブも、オフシーズンのトレーニングとして参加
- 将来的には、真のフットサル東京一を決する競技会へ
- ・スケジュール問題と会場確保の問題

■2002年度

夏...第2回東京都フットサルチャレンジ(U-18)

- ・名称と大会の趣旨を合致させる

冬...第2回東京都ユース(U-18)フットサル大会

- ・U-15、U-18同時開催により、ユース年代の交流促進!
- ・判定に対するトラブル続出!
- ・学校教育活動か、地域のスポーツ活動か

U-18大会をはじめてどうなったか?

- ・はじめの頃は「やんちゃな奴ら」が「多様なチーム」で参加
- ・「責任能力のある大人」の帯同を求める(今でも)



- ・学校のフットサル部・同好会、地域のフットサルクラブが増え、レベルが上がってきた。
- ・この大会のために編成された「多様なチーム」も参加。
- 冬の大会にはサッカー部、サッカークラブも参加。
- ・「もっとやりたい者」「もっとやらせたい者」が増えてきた



- ・東京の取り組みを全国に発信しよう!
- ・発信しながら、今後の方向性をさぐる!

部、サッカークラブの中で、オフシーズンのトレーニングとしてフットサル大会に参加するところが出てきました。そして、フットサルをもっとやりたい人、もっとやらせたい人が増えてきます。

せっかく東京で先駆的にやっているのだから、これを全国に広めていこう、情報発信しながら、今後の方向性を探ろうということになりました。

外部への情報発信① ートライアルFA制度の活用(2005～2007)ー ◆JFA・トライアルFA制度 ミッション7.「フットサルの普及推進」 2005～2007「東京都におけるU-18フットサル大会」 ◆報告書の作成 ・2005年度...2001～2005の事業をまとめた活動報告書作成 ※毎回作成していた「大会報告書」が役に立った ・2006年度...ユース(U-18)大会の運営を中心に報告書作成 ・2007年度...U-18プレリーグの試みを紹介 ◆報告書の配布とU-18大会の認知度アップ ・高体連、CY連ほか、都内の関係機関に配布 ...まずは都内での認知度を高める ・M7ジョイント・ミーティング(2006横浜、2007大阪) ...U-18大会に関して、いくつかの都道府県が興味を示す	2006年4月10日 発行  2007年3月31日 発行 
--	--

JFAトライアルFA 制度が川淵三郎会長の時にでき、ミッション7「フットサルの普及推進」に手を上げました。すでに大会をはじめていたので、大会の様子を報告書にまとめ、それを全国に紹介することになりました。全国の関係者が集まるジョイントミーティングで東京の取り組みを紹介させていただきました。これが起点になって、全国各地でいろんな取り組みが始まったと言ってよいでしょう。

右スライドはそのときつくった冊子の表紙です。左が立ち上げの5年間の取り組みをまとめたもの。右は大会をどのように運営するかをまとめたものです。まだ若干ですが私のところに残部があります。

全国的なフットサルの動向として、ちょうど2007年にFリーグが開幕しましたね。

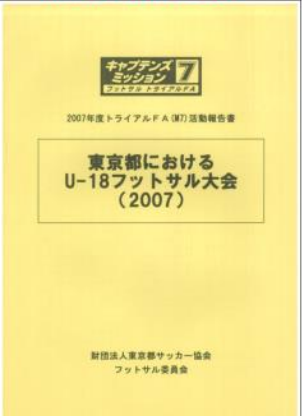
2. U-18フットサルリーグ

Fリーグが始まった2007年はトライアルFAの3年目。U-18フットサルリーグの取り組みを冊子にまとめました。ちょうど2007年度にプレリーグがはじまります。創設8チームはスライドのとおりです。学校運動部があればフットサルチームもある。多種多様です。

1年間のプレリーグを経て、2008年度からTFA主催の公認リーグとなり、2016年度からはTFFの傘下となります。初年度はかなりドタバタな見切り発車だったので従来どおりのリーグ運営を継続しましたが、徐々に連盟のルールに沿った運営を求められます。功罪ともにありということでしょうか。

「トライアルFA制度」は「JFA・支援制度」と名称が変わり、2008～2010年度は「東京都ユース(U-18)フットサルリーグの創設」に取り組み、補助金を活用しながらU-18リーグを展開しました。もっとやりたいから定期的な試合。もっと上手になりたいから競技力向上のためのクラブを超えた選抜チーム。もっと広げていきたいから他の道府県との交流拡大を志向します。けどリーグ戦は、基本的には自主運営です。会場、審判、責任の所在など、特にユース年代だからこそさまざまな問題があります。全部解決してからだといつまでたっても始まりません。そこでとにかくリーグ戦をやってみようということです。公認リーグの可能性と課題も見えてくるはずだということで始めました。

2008年3月31日 発行



東京都における
U-18フットサル大会
(2007)

財団法人東京都サッカー協会
フットサル委員会

東京都U-18フットサルリーグ

◆2007年度にプレリーグ

- ・BOA SPORTS CLUB
- ・Futsal Club BUBBLEユース
- ・FC無我
- ・アンマリアトール
- ・セイシンFS
- ・成立学園
- ・筑附FC
- ・フェニックス自由が丘学園

↓

◆2008年度から
TFA主催の公認リーグとなる

◆2016年度からTFF傘下に...
初年度は従来型を継承

外部への情報発信②

ーJFA支援制度の活用(2008~2010)ー

◆JFA・支援制度 ミッション7.「フットサルの普及推進」
2008~2010「東京都ユース(U-18)フットサルリーグの創設」

◆U-18リーグ創設の気運

- ・「もっとやりたい！」→ 定期的な試合の場の確保
- ・「もっとうまくなりたい、強くなりたい！」→ 競技力向上のためにクラブを超えた交流会、選抜チームの可能性
- ・「もっと広げていきたい！」→ 他の都道府県との交流・拡大

※自主運営できるか？
会場は？ 審判は？ 責任の所在は？

↓

とにかくリーグ戦をやってみよう！
“公認リーグ”の可能性と課題もみえてくるはず...

東京都ユース (U-18) フットサルリーグ成績							
年度	回数	1部優勝	1部準優勝	1部第3位	2部優勝	2部準優勝	2部第3位
2007 (平成19)	プレリーグ	BOA SPORTS CLUB	Futsal Club BUBBLE ユース	FC無我			
2008 (平成20)	第1回	BOA SPORTS CLUB	府中アスレティックFCユース	FC無我	大友学園高校	成立学園B	FC無我トランディション
2009 (平成21)	第2回	FOOTBOZE FUTSAL U-18	SEIRITZ A	府中アスレティックFCユース	FC目黒	FC無我トランディション	筑附FC
2010 (平成22)	第3回	FOOTBOZE FUTSAL U-18	府中アスレティックFCユース	FC無我DRADITION.A	FC無我DRADITION.B	渋谷高等学院	フェニックス自由が丘学園
2011 (平成23)	第4回	府中アスレティックFCユース	FOOTBOZE FUTSAL U-18	渋谷高等学院	東京成徳大学高等学校フットサル同好会	郁文館高等学校	SEIRITZ B
2012 (平成24)	第5回	FOOTBOZE FUTSAL U-18	府中アスレティックFCユース	東京成徳大学高等学校フットサル同好会	Futsal Club BUBBLE ユース	フェニックス自由が丘学園	錦城高等学校
2013 (平成25)	第6回	FOOTBOZE FUTSAL U-18	東京成徳大学高等学校フットサル同好会	郁文館高等学校	自由ヶ丘学園高等学校	錦城高等学校	SEIRITZ B
2014 (平成26)	第7回	FOOTBOZE FUTSAL U-18	府中アスレティックFC U-18	Futsal Club BUBBLE U-18	錦城高等学校	日本学園高等学校	ZOTT WASEDA JUVENIL
2015 (平成27)	第8回	FOOTBOZE FUTSAL U-18	府中アスレティックFC U-18	東京成徳大学高等学校フットサル部	駿台学園フットサル同好会	錦城高等学校	日本学園アルバトロス
2016 (平成28)	第9回	FOOTBOZE FUTSAL U-18	ZOTT WASEDA JUVENIL	府中アスレティックFC U-18	錦城高等学校	フウガドールすみだファルコンズ	LOCOS EDOGAWA FUTSAL CLUB U-18
2017 (平成29)	第10回	フウガドールすみだファルコンズ	FOOTBOZE FUTSAL U-18	ZOTT WASEDA JUVENIL	ASV PESCADOLA町田 U-18	LOCOS EDOGAWA FUTSAL CLUB U-18	中野FC Soleil U18
2018 (平成30)	第11回	ASV PESCADOLA町田 U-18	フウガドールすみだファルコンズ	ZOTT WASEDA JUVENIL	リガール東京ロコス U-18	ASV PESCADOLA町田 U-18B	フウガドールすみだウィングス
2019 (平成31・令和元)	第12回	ASV PESCADOLA町田 U-18	ZOTT WASEDA JUVENIL	フウガドールすみだファルコンズ	ASV PESCADOLA町田 U-18B	フウガドールすみだファルコンズC	フウガドールすみだファルコンズB
2020 (令和2)	第13回						

上表が過去13回の成績です（上位3チームのみ。未完）。

リーグ関係の資料を一つ見つけました。2017年1月30日のTFAフットサル委員会資料です。2016年度より連盟傘下に置かれることになったU-15とU-18のユースリーグは、初年度の「見切り発車」状態から2017年度は一步進めることが求められているということです。すると加盟費や登録費・参加費がいままで以上にかかってくる。この問題をどう解決していくかという問題です。

似たような問題が全国各地で起きており、ユース年代のリーグ戦をどのような位置づけで展開すればよいのだろうかという議論がありました。第2種年代の登録者数が増えないことが課題であるという話もありました。このあたりは、いまま引き続き解決されない問題として残っていると思います。

TFAフットサル委員会資料

ユース(U-15、U-18)リーグと東京都フットサル連盟(課題共有のために)

- ・2016年度より東京都フットサル連盟傘下に置かれることになった両ユースリーグは、初年度の「見切り発車」状態から、2017年度は一步進めることが求められています。
- ・昨日、関西の本多さんとJFFへ赴き、U-18年代の競技会についてJFF事務局の〇〇さんと打ち合わせをしました。U-18の競技会が整備される一方で、「連盟への2種登録者数が増えない」ことがJFFとしてなかなかU-18年代に注力できない背景となっているようです。連盟(リーグ)は受益者負担が原則です。その中でユース(U-18、U-15)リーグがどのように位置づけられ、どのような関係で進めていくのかは、全国的な課題でもあります。東京でよいモデルを示すことができればと思います。
- ・1/29の大会の合間に話をしましょう。(以下略)

2017.1.30.(中塚)

ということで、この表を見ながら有吉さんに、ユースリーグの立ち上げの頃の話、あるいは連盟傘下に置かれるようになった頃の話など、ざっくばらんにいろいろお話しいただけないでしょうか。

有吉：皆さんこんにちは。いまフットサルリーグの実施委員長をやらせていただいている有吉です。よろしくお願いします。最近の流れは皆さんもご存知なので、リーグの立ち上げの部分とか、昔話ぐらいならできるかなということでお話しさせていただきます。

いま中塚先生からスライドで紹介された中で、フットサルになるまでの間にも、まずは「サロンフットボール」という時代があって、僕はその時代からかわりはじめ、「フットデサラ」という時代もありました。小さいボールを使った時代がほんのちょっとだけ挟まって、「ファイブアサイド」、そして「フットサル」みたいな流れだったと記憶しています。ですから室内のサッカー、室内競技としてのフットサルには相当前から触れています。

そんな中で高校生年代のフットサルリーグをさせてもらっています。リーグの立ち上げ。さっきのスライドにはすごくカッコいいことが書かれていましたが、一つは中塚先生が、高校生の日常にフットサルをとっしやったこと。二つの大会があったんですが、その間の期間に高校生がフットサルをやることがないと。常にフットサルに触れられるようにということをまず一つ目的に、リーグ戦をやろうじゃないかというのがひとつです。僕は今日、ギリギリにZoomに入ったのですが、直前まで桜田さんとお電話をしていました。桜田さんとはどういう方かというと、フットサルリーグを立ち上げた方です。いまは銀座中学校のサッカー部顧問をやってらっしゃるそうです。その方の熱い思いがあってこのリーグが立ち上がったと僕は思っています。その時はセイシンFS、通信制の学校でしたね。年齢的にも18歳以上もいるような学校だったと思います。僕が印象に残ってるのは、その子たちに「社会にはルールがあること教えたいんだ」ということです。試合を楽しむためにはルールがあって、イエローカードやレッドカードをもらったら出られなくなるんだよ、ということを伝えたいんだと。フットサルを通して。さっき中塚先生も、負けたら壁を蹴っているという話がありましたけれども、そういう教育的なところの考え方からこのリーグが始まったのだと思います。だから、自分たちで何でもやる。審判もやる、運営もやるっていうところから。例えばコート作り。ラインがまっすぐ引けたら表彰しようとか、挨拶ができたら表彰しようとか。そういう話でした。桜田さんのチームも最初はやっぱり挨拶してくれませんでした。けど、リーグ戦が進むにつれて、豊島園でやっていた頃、すれ違うと僕なんかに挨拶してくれるようになっていったのを思い出します。そういった、勝ち負けよりも、教育的な部分、何だかわからないようなところから始まっていったというのを記憶しています。

そんなリーグだったので、最近入ったところにしてみれば想像がつかない。Fリーグの下部組織がいて、正直勝ち負けだけに、とは言い過ぎかもしれないけど、ある程度重点を置くことが多いと思いますが、あの頃は勝ち負けもありましたけど、教育的な要素が非常に大きかったです。話し合いの中でも、何とかの賞を作ろうよとか、これできたら、みたいな話は結構していたのを覚えています。そのあたりはたぶん皆さんがいなかった時代のことなので、そんなことがあったのねっていう部分ではないかと思います。

いまでもそうですが、クラブチームと学校の部活が混在しているのがこのリーグです。開始時刻がクラブチームは夜遅くても大丈夫、部活は何時までに帰さなければまずいとか、そういったことで、日程がすごく見づらいのがこのリーグの課題で、いまでも続いているところかなと思います。昔からそうでし

た。昔は日程を決めていたけど「行けない」と言って、結構練習試合やってみたりということも多かったのかなと。これはいまもなかなか変わらないところかなと、やっていて感じます。

2015年ぐらいから、いろいろとこちらの方もだんだん整備され、先ほどもフットサル連盟の傘下に入ることによって徐々に変わってきました。選抜大会も2015年の3月から、ユースフットサル選抜トーナメントが始まっています。そこからリーグ選抜も活動を始めていくような形でやっています。

韓国遠征はもっと早くから入っていましたが、そんな流れです。

2016年やその次の年ぐらいから、フウガさんとかロコスさん、中野さんとか、フットサルのクラブチームやFリーグの下部組織が入ってくれて、2017年に町田さんが参入してきて本格的なリーグ戦になっていったと思います。

まだ昔の「ライン引きまっすぐ引けたら」とかそんなのを背負ってるのが僕であって、ちょっと離されているところがありますが、その中から生まれたのかこのリーグなのだということは皆さんの中にも少し知っておいてもらえたらなと思います。

あとこのリーグ戦の表ですが、これがまた合っているようで合っていないという話です。昨日も夜中3時までいろんな資料を引っ張ってみてきました。今日も先ほどまで電話をしながら確認です。フットボウズの豊田さんに連絡したら「第3回の賞状が2枚ありました」と言っておられました。平成23年と24年がともに第3回大会となっていて、第3回大会が2枚ありましたということです。第4回の大会要項が年度をまたいでいるなど、あいまいですね。

最初は年に1回やっていたリーグ戦が、前後期でやろうよとなります。前期・後期とか1部・2部やろうよって言った中から、さらに学校部活動の先生から、どうしても受験生は一学期で終わるんだと。そうするとせっかく1学期の前期で昇格しても、後期に出られないんですよっていう話もあります。そこで最初は、たぶん前期・後期にした時に、9月以降を前期、1学期が後期で、後期が終わったら3年生は卒業としていた年代がかつてあって、しかも前期・後期の中でも入れ替えがあったんですね。

この表を見ていただくと、錦城さんが2014年に2部で優勝しているので次の年は1部のはずなのに、何で2015年も2部にいるんだっていう話です。詳しく見てみると、2015年の前期に錦城さんが1部最下位になり、後期の時点で入れ替えとなって2部になったようです。それも正解かどうかわかりませんが、一応このように、前期・後期で入れ替わっている時代もあったことを思い出しました。立派に見える表ですが、報告書の段階で修正したいなと思います。速水先生など、昔いらっしゃった方からも是非情報を教えていただけたらなと思いますのでよろしくお願いします。以上です。

中塚：ありがとうございます。この表自体は東京都サッカー協会のホームページから転載させてもらっていますが、実は正確ではない部分があるということです。

錦城高校の校名も出たので、石井さんに記憶を辿ってもらい、2014年～2015年の第7回～8回大会あたりの思い出をちょっと。

石井：たいした話ではありませんが、2013年の第6回大会、2部リーグで初めて1位になり、入れ替え戦に臨みました。そして2014年度の前期に優勝します。ところが2015年、2014年の後半戦が始まる前に、有吉さん率いるFCバブルさんに入れ替え戦で負けてしまって2015年に再び2部リーグになったという状況

です。2016年にたまたま優勝させていただくことができ、2017年からは1部リーグの底辺にいるという状況です。

中塚：ありがとうございます。この表を完成させるためには、各クラブの歴史から紐解かないといけませんね。20周年のタイミングでちゃんとやっておかないと、このような物語が消えてしまうと思います。あと一週間ぐらいですが、物語を拾い上げてまとめましょう。
第1回プレリーグのチームが記されています。まだ「クラブ」にもなっていないと思うけど、セイシンが桜田さんのところですね。そして筑附FCが含まれています。筑波大学附属高校の速水先生が来ているので、お話を伺いたいと思います。速水さんもリーグ創設期の中核の一人として、立ち上げのころに関わられたと記憶していますが。

速水：そうですね。立ち上げの前の年の夏の大会の後で、やりたいチームは集まってくださいみたいな感じで始まり、その次の年ぐらいから協会の方に入ってリーグの立ち上げに関わらせていただきました。このチームで1周やってみて、最初のうちは協会から補助金を出していただけたので、コート代も安く済んだのですが、それがだんだんなくなっていき、各チームの持ち出しの金額が大きくなりました。そこに対してチームの体制が良くなればよかったんですが、本校は1学年6クラス、男女半々なので、男子の人数がそもそも多くなくて、例年部員が5人いればいい方みたいな感じでしたので、だんだん人数が先細りになりました。リーグ戦はちょっと厳しいだろうということで数年前から抜けて現在に至る状況です。

中塚：ありがとうございます。速水さんには後ほど、女子のところでもコメントいただきます。
いまリーグ立ち上げの頃、補助金があったという話がありました。私のスライドでもお見せしたJFA支援制度のことですが、TFAの事務局でずっとフットサルに携わってくださった角脇さん、そのあたりの事情にも詳しいのではないかと思いますのでちょっと補足いただけますか。

角脇：私はU-18リーグ立ち上げには関わっていないと思いますが、補助金の面で言うと、U-18リーグおよびU-15リーグも関わっています。補助金としてはこの年代のフットサルの発展というところで、日本協会にいくらかいただいて、それをそのままリーグの発展のために使っています。この年代だとチーム側に負担してもらう金額について多くは求められないので、例えば会場として民間のフットサル会場を使われていると思いますので、そういったところに使っていただくかたちです。各チームの負担が減るようになればということで、補助金を引き続き活用いただければと考えています

中塚：ありがとうございます。都内完結型の大会からこのあとは全国大会、選抜チーム、韓国遠征、こういった話に繋がっていきませんが、せっかくのリーグの話です。5時に抜けなければならない、富山県からご参加の橘さんに、富山県リーグのことを紹介していただければと思います。

橘：私は前任校にいた時に、2種部会員としてフットサルを担当して欲しいと。それは全日本ユースU-18大会ができ、その運営をやってほしいと言われました。私自身がプレイヤーとして社会人の北信越リー

グなどでプレイしていたこともあり、連盟や社会人の方との繋がりもあったのでわかるだろうという感じで依頼されたものです。そこからはじめていったのですが、富山県の場合、ご存知の通り冬は雪が降ってサッカーのトレーニングがなかなかできません。そこで富山県の西側の地域の高校で、フットサルリーグを冬場の強化として始めました。その中で、私が勤めていた学校も、東側でもそういうチームがあると思うので一緒に混ぜて頂きたいというのとか、西東で分けてリーグを作るようになりました。せっかくリーグを作り、選抜大会もあるのだから、選手をピックアップして北信越大会に出て欲しいというのも考えたりしていた頃でした。その頃は他の県とか東京都さんのことも全く知らず、リーグの形作りをしていたところだったんですが、2017年のカップ戦にたまたま北信越代表で出させていただいた時に、こういう会があるよということで、サロンの月例会、たしか墨田であったと思いますが、参加させていただきました。こういうところは真似をさせていただいたり、富山ではこういう事情があるから僕はこのようにやっていこうなどの意見交換ができました。東京のようにサッカー部を弾かれてそこの会場でフットサルをやっているような子は、富山には皆無です。しかしフットサルを用いてサッカーの技術・戦術の向上にはつなげていきたいということも含めてやっているところです。いまだと帝京長岡さんなど、北信越でもフットサルに取り組んでサッカーで結果を出しているチームがある中で、富山県でもそういうチームが増えていったらいいなと思います。最近、不二越工業さんがフットサルにしっかりと取り組まれていて、去年の高校サッカー選手権でもベスト4まで行ったことがありました。少しずつフットサルへの注目も、県内のサッカー指導者の中で高まってきているかなというところでは。

中塚：ありがとうございます。富山県ではユース年代のフットサルを、高体連のサッカー専門部主導で展開していったんですね。

橘：その通りです。当初はあるクラブチームのフットサル部を中心に、クラブチームの方も関わっておられました。高校サッカー部に所属している方を集めてフットサルに取り組むところもあったのですが、高校生年代だとなかなか両方は難しいようです。なので、いま言ったような、高校サッカーチームの強化の側面が強いリーグになってきています。

中塚：ありがとうございます。というように、全国それぞれ事情があるわけで、地域に応じた展開をしていけばいいなと思います。そして東京はその先駆者たるべしと感じております。

ではリーグの話から次の話へ。

II. 東京から全国～世界へ（中塚義実）

1. JFAとJFFの主催大会

右スライドの「ユース年代のフットサルを盛り上げよう」が、ちょうど10周年の時に作った冊子です。

シンポジウムを2011年2月5日、駒沢陸上競技場会議室で開きました。そのとき言ったのは、はじまりの10年（創設期）は、都内で立ち上げ、育てた期間だと。立ち上げ、育てたのは、普及目的の夏の大会、競技志向の冬の大会、そしてフットサルリーグです。10周年は、ちょうどフットサルリーグが始まった頃でした。

次の10年は「横と縦の広がりを目指する」ということを述べました。横への広がりとは、関東そして全国へ。隣県との交流から全国大会の開催です。そして縦の広がりとは、底辺から頂点まで、多様なレベルやニーズに応じた事業。このようなことを掲げて次の10年に臨みました。

話は戻りますが、夏と冬の都内完結型大会優勝チームをまとめました。「はじまりの10年」。ちょうど2001年に始まっているので、大会回数に20をつけると年度になります。U-18リーグも2007年度から始まり、2008年度から公式大会となっています。チーム名だけみるとなんだかよくわからないところがありますが、例えば第3回の夏の大会に優勝したFC東京U-18は、本当にFC東京U-18です。TFAフットサル委員会のユース部会にFC東京の人がいて、じゃあ出てみようかとなって、しばらく出ていました。ちょっと異質な感じでした。冬の大会のAC

「はじまりの10年間(2001～2010)」と、「次の10年間(2011～2020)」の位置づけ

東京都におけるU-18フットサル大会 10周年記念シンポジウム報告書

◆「はじまりの10年(創設期)」は、「都内」で立ち上げ、育てたのは、

- ①普及目的の夏の大会
- ②競技志向の冬の大会
- ③フットサルリーグ

◆「次の10年」は「横と縦への広がり」を志向する

- ①横への広がり ... “関東”そして“全国”への拡大
→ 隣県との交流から全国大会の開催へ
- ②縦への広がり ... “底辺”から“頂点”までの拡大
→ 多様なレベル・ニーズに応じた事業

「東京都におけるU-18フットサル大会10周年記念シンポジウム」資料
2011年2月5日(土) 駒沢陸上競技場会議室

はじまりの10年(2001～2010)

回数	チャレンジ U-18 (夏)	都ユースU-18 (冬)	回数	U-18リーグ1部
1	エスベ ランチ東京A	府中アスレティックFCニコレット		
2	府中アスレティックFC U-18	府中アスレティックFCニコレット		
3	FC東京 U-18	ACコマ		
4	ガロFC U-18	ラルゴFC U-18		
5	タボス	FC東京 U-18		
6	ガロFCトキョウ U-18	フォックスFC		
7	ボアSC	目黒エガリッシュ	ブレ	BOA SPORTS CLUB
8	FC無我	FC無我	1	BOA SPORTS CLUB
9	FOOTBOZE FUTSAL U-18	國學院久我山高校	2	FOOTBOZE FUTSAL U-18
10	十条FC U-18	FOOTBOZE FUTSAL U-18	3	FOOTBOZE FUTSAL U-18

飛躍の10年(2011～2020)

		回数	チャレンジ U-18 (夏)	都ユースU-18 (冬)	回数	U-18リーグ1部
		11	府中アスレティックFC U-18	國學院久我山高校	4	府中アスレティックFC U-18
		12	府中アスレティックFC U-18	國學院久我山高校	5	FOOTBOZE FUTSAL U-18
回数	JFA全日本ユース	13	FCパブル U-18	FCエガリッシュ	6	FOOTBOZE FUTSAL U-18
1	関東第一高校	14	FOOTBOZE FUTSAL U-18	FOOTBOZE FUTSAL U-18	7	FOOTBOZE FUTSAL U-18
2	FOOTBOZE FUTSAL U-18	15	府中アスレティックFC U-18	國學院久我山高校B	8	FOOTBOZE FUTSAL U-18
3	FOOTBOZE FUTSAL U-18	16	フウガドールすみだファルコンズ	FOOTBOZE FUTSAL U-18	9	FOOTBOZE FUTSAL U-18
4	フウガドールすみだファルコンズ	17	フウガドールすみだファルコンズ	國學院久我山高校	10	フウガドールすみだファルコンズ
5	フウガドールすみだファルコンズ	18	ASV PESCODOLA町田 U-18	ASV PESCODOLA町田 U-18	11	ASV PESCODOLA町田 U-18
6	フウガドールすみだファルコンズ	19	ZOTT WASEDA JUVENIL	ASV PESCODOLA町田 U-18	12	ASV PESCODOLA町田 U-18
7	中止	20	中止	中止	13	

・第11回都ユース優勝の國學院久我山高校は、「U-18フットサルトーナメント2012」に出場
 ・第12回は、関東代表決定戦で武相高校(神奈川)に敗退
 ・第13回は、関東代表決定戦で幕張総合高校(千葉)に敗退
 ・第14回優勝のFOOTBOZEは、「ユースフットサル選抜トーナメント2015」で第3位
 東京都ユースリーグ選抜が準優勝(優勝は愛知県選抜) ※NPOサロン共催
 ※2014年度からJFA全日本以外の競技会は「指導普及事業」→フェスティバル

コマというのは駒込高校のチームですね。同一クラブから3チーム出ていたうちのひとつです。チーム名からその時代のムードがわかります。

第9回の冬の大会で國學院久我山高校が優勝します。これはお正月の選手権を目指していた、あるいは本大会に出場した、どちらかは忘れましたが、このあたりから高校3年生が思い出作りで1月のフットサル大会に出てくる流れが始まります。そして、久我山をはじめとするサッカー強豪校対フットサルクラブの対戦というのが、次の10年で非常に面白かったところです。

2014年度からは、先ほど有吉さんの話にもありましたが、JFA全日本U-18選手権が始まります。この経緯はまたあとで述べます。東京都の冬の大会の続きで言うと、第11回都ユース優勝の國學院久我山高校が、名古屋のオーシャンアリーナで開催された、U-18フットサルトーナメント2012に出場します。その翌年も久我山が優勝しましたが、関東代表決定戦を神奈川の武相高校と、筑波大附属高校体育館でやりました。すごく面白い試合でした。武相が全国に出ました。第13回大会優勝のエルグアッヘというのは駒澤大学高校サッカー部です。幕張総合高校に関東枠を譲ります。第14回大会のフットボウズは、「ユースフットサル選抜トーナメント」と名称を改めた大会で第3位。このとき開催地枠で東京都ユースリーグ選抜が出て準優勝しました。優勝は愛知県選抜です。これが先ほど有吉さんのところで話が合った、墨田の体育館でやった大会です。この大会は（一財）日本フットサル連盟（JFF）主催ですが、NPO法人となったサロン2002も共催団体となります。

2014年度から、JFA全日本U-18選手権につながる左端の大会以外の競技会は、指導普及事業という位置づけで「フェスティバル」という名称になりました。このあたり角脇さんから、登録制度も含めて補足をいただければと思います。

角脇：全日本ユースがはじまったタイミングで、参加者にわかりやすいように、全日本ユースはチーム登録が必要、それ以外のフェスティバルと呼ばれるものはエンジョイプレイヤー登録で出場できますということで、傍からみてわかりやすいような形で整えたというのがあります。

注）現在はエンジョイプレイヤー登録制度は廃止

中塚：ありがとうございます。というマイナーチェンジだけど制度的な変遷もみながら少しずつ展開してきました。各大会の優勝チームをみると、徐々にフリーグの下部組織が台頭しているのがわかります。

そして20周年の今年、残念ながら全ての大会が中止となりました。

全国大会開催につながる話をします。

「それは本多氏の訪問から始まった」ということで、関西の本多克己氏（㈱シックス／NPO法人サロン2002副理事長）が筑波大学附属高校の体育教官室に来られたことから始まります。

民間レベルのU-18大会をやろうという機運はいくつかみられました。例えばフジテ

（プレ）全国大会開催へ向けて
それは本多氏の訪問から始まった

◆民間レベルのU-18大会

1)「夏高フットサル」の試み
2008年8月「第1回夏の高校生フットサル大会」(フジテレビ系)
2010まで開催。2011は「震災の影響で」中止
「学校名」を出して「学校単位」で出場
→「春高バレー」「高校生クイズ」のイメージだろうが、「フットサルの理念」からはかけ離れている(中塚考)

2)「ホンダカップ」でユース(U-18)カテゴリーははじまる(2010)

3)その他

◆サッカー協会公認大会 → 東京含め、いくつかの県でははじまる

◆高体連 → フットサルには及び腰？

↓

2011年9月 於筑波大学附属高校体育教官室
本多・中塚 作戦会議
「将来的に公式大会」となるような全国プレ大会を開けないだろうか」

レビ系列。春高バレーや高校生クイズのイメージで、学校単位でやるような企画が提案されたことがあります。これも筑波大学附属高校体育教官室に担当者が来てそんなことを言っていたましたが、ちょっとそれは違うなと思ったし、伝えました。学校単位の縛りがあると、フットサルの自由な良さが損なわれてしまいます。一方、ホンダカップ、もとはニッポンハムカップと言っていた民間大会にU-18のカテゴリーが生まれます。このように民間レベルのU-18大会がぼちぼち始まろうとしていました。

また、都道府県サッカー協会公認大会、公認リーグが、東京をはじめいくつかの地域で始まっていた。一方で、全国高体連サッカー専門部は、女子の加盟がこのころ認められましたが、フットサルには及び腰。というより、そこまでやってられないよという感触です。地方では、例えば富山県高体連が中心になってU-18フットサルに取り組んでいますが、全国高体連サッカー専門部はそこまでできないと。

2011年9月のことです。散らかっている体育教官室に関西から本多克己さん（NP0法人サロン2002副理事長／櫛シックス）が来て、何とかしようと作戦会議を開きました。将来的に公式大会となるような、全国大会の「プレ大会」を開けないだろうか。そこから関係者に何件か電話して、やろうやろうとなり、あれよあれよという間にその年度末の3月に、株式会社フロムワン、株式会社シックスの主催で「サッカーキングカップU-18フットサルトーナメント2012」がオーシャンアリーナで開かれました。世界一のフットサルの聖地です。いまはバレーのポールが立つようになっているようですが…。

サッカーキングカップ U-18フットサルトーナメント2012 2012年3月24日～25日 於オーシャンアリーナ ■主催：株式会社フロムワン、株式会社シックス ■後援：一般財団法人日本フットサル連盟 全国9地域フットサル連盟 ■協力：財団法人愛知県サッカー協会 愛知県フットサル連盟 名古屋オーシャンズ株式会社 ■特別協賛：サッカーキング ■協賛：株式会社ナイキジャパン 株式会社日本ツアースervice	サッカーキングカップ U-18フットサルトーナメント2012 2012年3月24日～25日 於オーシャンアリーナ 主催：株式会社フロムワン、株式会社シックス 優勝 各府県オーシャンズU-18(愛知県) 準優勝 作陽高校(岡山県) 第3位 松山工業高校(愛媛県) 第4位 国学院久我山高校(東京都) 第5位 京都橘高校(京都府) 第6位 V&Nフットサル(宮城県) 第7位 ACアース(宮城県) 第8位 熊本県U-18フットサル選抜(熊本県) 第9位 日本ウェルネス高校松本校(長野県)
--	--

高校生年代のフットサルチャンピオンを決める初の全国大会です。参加してくれた全チームが意欲的だったし、何と言っても決勝戦の名古屋オーシャンズと作陽高校の試合がメチャクチャおもしろい試合でした。大きなインパクトを与えた大会だったと思います。

これに気をよくして、毎年3月のこの時期にやろうということで、翌年もやりました。「U-18フットサルトーナメント2013」です。このときから主催は日本フットサル連盟となります。

右側の写真は、初日の試合が終わったピッチ上でサロン2002の公開シンポジウム「U-18フットサルを語ろう！」を行っているところです。



JFAフットサル委員会の松崎康弘委員長、あるいは日本フットサル連盟の大立目佳久専務理事（いずれも当時の肩書）らに登壇してもらい、U-18年代を盛り上げていこうと、かなり前向きな議論をしました。しかし実際にU-18年代の大会が始まるまではしばらくかかるだろうと思っていたところ、すぐに実現します。一つは、3月にやっていたこの大会が、JFF主催、NPO法人サロン2002共催で「選抜大会」となっています。残念ながら2018年度を最後に開かれなくなってしまいましたが、再開の動きもあります。そして、いち早くできたのがJFA主催の全日本U-18フットサル選手権大会です。2014年度から始まった、単独チームの全国大会は、当時の松崎委員長のいい意味でのリーダーシップによるものと言えるでしょう。JFA主催となれば磐石です。何とかこういうところに持っていきたいと考えています。



GAViC CUP ユースフットサル選抜トーナメント
 2012年に「U-18フットサルトーナメント」として創設。
 2015年からは名称を変更し、一般財団法人日本フットサル連盟主催、サロン2002共催（2017年まで）で、全国9地域から選抜された12チームで開催。
2018年度以後は開催なし。

2012年 名古屋オーシャンズU-18(愛知) / オーシャンアリーナ
 2013年 瀬戸内高校(広島) / オーシャンアリーナ
 2014年 幕張総合高校(千葉) / 駒沢体育館
 2015年 愛知県選抜U-18 / 墨田区総合体育館
 2016年 U-18新潟県選抜 / 墨田区総合体育館
 2017年 U-18新潟県選抜 / 墨田区総合体育館
 2018年 U-18神奈川県選抜/和歌山ビッグホエール



全日本ユース(U-18)フットサル大会
 日本サッカー協会主催の大会として全国9地域で予選を開催。世代No.1決定戦となっており、高校サッカー部が多数出場。

2014年 聖和学園FC(宮城) / 大田区総合体育館、墨田区総合体育館
 2015年 岡山県作陽高校(岡山) / ゼビオアリーナ、仙台市体育館
 2016年 帝京長岡高等学校(新潟) / ゼビオアリーナ、仙台市体育館
 2017年 矢板中央高等学校(栃木) / ゼビオアリーナ、仙台市体育館
 2018年 帝京長岡高等学校(新潟) / ゼビオアリーナ、カメイアリーナ仙台
 2019年 ペスカドーラ町田U-18(東京) / 浜松アリーナ
 2020年 中止

※年/優勝チーム/会場

2019年の優勝はペスカドーラ町田U-18です。過去の優勝チームをみてわかるように、歴史的なターニングポイントとなる大会でした。ペスカドーラ町田は、東京都の予選ではフウガドールすみだに敗れて準優勝だったんですね。関東予選でも準優勝。それが本大会で優勝です。

ちょうど町田の山野さんがいらっしゃるので、このあたりでコメントいただけないでしょうか。

山野：監督の甲斐修侍がジュニアユースを立ち上げ、初年度の選手達が高校3年生の時にこの大会となり

ました。初年度からの選手達の集大成で優勝することが出来ました。ただし、東京都大会、関東大会はいずれも準優勝だったので、ここを勝ち抜くのが本当に大変だなと感じています。全国大会に出て、サッカーチームとの対戦など大変な思いはあるのですが、東京・関東のレベルの高さをいつも感じています。今までの全国大会優勝チームはサッカーチームですが、例えば冬のリーグチャンピオンズカップに出たときに京都橘と

JFA全日本U-18フットサル大会				
回	年	優勝	準優勝	第3位
1	2014	聖和学園FC (東北/宮城県)	名古屋オーシャンズU-18 (東海/愛知県)	藤井学園寒川高等学校サッカー部 (四国/香川県)
2	2015	岡山県作陽高等学校 (中国/岡山県)	北海道釧路北陽高等学校 (北海道/北海道)	PSTCロンドリーナU-18 (関東/神奈川県)
3	2016	帝京長岡高等学校 (北信越/新潟県)	フットボーズ・フットサルU-18 (関東/東京都)	香川県立高松商業高等学校 (四国/香川県)
4	2017	矢板中央高等学校 (関東/栃木県)	新潟県立長岡向陵高等学校 (北信越/新潟県)	フウガドールすみだファルコンズ (関東/東京都)
5	2018	帝京長岡高等学校 (北信越/新潟県)	フウガドールすみだファルコンズ (関東/東京都)	聖和学園FC (東北/宮城県)
6	2019	ペスカドーラ町田U-18 (関東/東京都)	シュライカー大阪U-18 (関西/大阪府)	湘南ベルマーレU-18 (関東/神奈川県)
7	2020	中止		

JFA全日本U-18東京都大会優勝チーム	
2014 関東第一高校	2017 フウガドールすみだファルコンズ
2015 FOOTBOZE FUTSAL U-18	2018 フウガドールすみだファルコンズ
2016 FOOTBOZE FUTSAL U-18	2019 フウガドールすみだファルコンズ

対戦したり、そのあとのフットサルフェスティバルで國學院久我山と試合し、そこで勝ったり負けたりした経験が全国大会に生きてきたのかなと思います。なので我々は、あとから参加させてもらっている身ですが、リーグ戦、カップ戦でいい経験ができて、全国の舞台で優勝できたのだと思っています。

中塚：2020年度が中止だったのが残念ですね。

山野：そうですね。選手権を優勝したメンバーの中にはFリーグで既に活躍している者もいます。公式戦が今季なかなかできなかったのは経験を重ねていく事に関して言えば、かわいそうだったなと感じます。何とか今後の大会は開いてあげたいなと思います。

中塚：我々も同じ思いであります。ちなみに右写真は第5回大会の東京都大会決勝の様です。2021年度の第8回大会も、東京都大会の決勝は筑波大学附属高校の体育館で6月13日に予定しています。



2. NPO法人サロン2002主催「U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ」

もうひとつの大会です。高校生年代のフットサル大会には、JFA全日本U-18選手権が単独チームの大会としてあり、いまは行われていませんがJFF主催の選抜大会もありました。それに加え、各地域でリーグ



2017年 1月6日④、7日⑤ エコパアリーナ（静岡県）
優勝：HeroFC U18F（静岡県）

2018年 1月6日④、7日⑤ 武田テバオシャンアリーナ（愛知県）
優勝：SANTOS FC18（愛知県）

2019年 1月5日④、6日⑤ ことぶきアリーナ千曲（長野県）
優勝：京都橋高等学校（京都府）

2020年 1月4日④、5日⑤ ことぶきアリーナ千曲（長野県）
優勝：シュライカー大阪 U-18（大阪府）

戦をやってもらい、そのチャンピオンが集まる大会を構想しました。大会ありきではなく、まずは日常生活の中にフットサルを。そのためのリーグ戦を全国に広げていきたいという思いではじめたのが「U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ」です。NPOサロンがto toの助成金を受けて主催しています。

2016年度の年明け、2017年1月にエコパアリーナ

で、その次はオーシャンアリーナ、そしてその後は長野県千曲市のことぶきアリーナ千曲でやっています。今年度はコロナ禍で開催すべきかどうか悩みましたが、実施することができました。ペスカドーラ町田が優勝です。おめでとうございます。

ちなみに、組み合わせ表の左上、いきなり不戦勝となっているのは、富山から不二越工業が朝の3時に出発して北陸道で来てくれたのですが、折からの大雪に阻まれ、10時キックオフの間に合わなかったためです。

山野さんからコメントをお願いします。

山野：全国のリーグ優勝チームが出てきてくれるので、我々としてはとてもよい経験が得られる大会です。今大会の決勝は東京のZOTT WASEDAさんとの試合だったので、東京はレベルが高いつて毎回思っています。そういう中でリーグ戦ができていたのもとてもありがたいです。

中塚：この大会は5回目になりますが、実はU-18フットサル先進地域の東京の優勝は今回が初めてです。

さて、ここまではどちらかというと単独チームの話が中心でしたが、視点を変えて選抜チーム、その行き先としての韓国遠征について、徳田仁さんが深く関わっておられるので話をさせていただきたいと思います。TFAフットサル委員会第3種部会長の徳田さんは、韓国フットサル連盟名誉理事でもあります。

3. 韓国遠征一日韓親善フットサル大会（徳田仁）

注）ページ数はTFA発行の20周年誌のもの

ご紹介頂きました徳田です。今年度サロン2002の理事であり東京都サッカー協会・フットサル委員会の3種部会長もやっています。中学生年代の第3種と高校生年代の第2種と連携して動いているのでこちらの方にも顔を出させていただいています。私からは韓国遠征についてお話しします。

まずこの東京都U-18フットサルリーグ選抜の韓国遠征ということですが、これは韓国フットサル連盟が開催する公式大会に参加する形で遠征しています。ここ（p. 97）に名義関係が書いてありますが、1998年に第1回が開催されていて一昨年が第22回なので、本来なら今年24回が開催されるはずの大会です。資料p. 97に記載があるように「大韓体育会長杯王中王戦」ということで、日本で言えば日本体育協会、いまの日本スポーツ協会の会長名の冠がついた大会で、英語だとカップウィナーズカップということになりますね。韓国語で「ハンイル ワンジュンワンベ プッサルデフェエ」（KOREA/JAPAN KING OF KINGS CUP TOUR NAMENT）と大会名が付いています。韓国フットサル連盟の主催大会で、日本チームは参加費を徴収されませんが、日本から韓国への2泊3日の旅費（ひとり約8万円）は各自負担となっています。選抜チームです



が旅費が負担できないとか、12月なのでテストの関係で行けない子もいるんですけど、選抜の中から行ける子をまた選ぶようなかたちでここまで続けてやっています。

報告書表紙 (p. 97) 写真の真ん中にいる白いコート着た方が韓国フットサル連盟会長のキム・デギルさんで、彼との出会いがこの大会を開催するきっかけでした。23年前、1998年当時はまだ彼は民間団体だった「韓国フットサル連合会」の事務局長でした。先ほど中塚さんの話にも出てきましたが、フットサルという競技は1994年にFIFAがフットサル競技規則を統一し、1995年に日本に上陸しました。いわばフットサルの黎明期に私はTFAのフットサル委員として、キム氏は韓国フットサル連合会として、お互いに手探りでフットサルの普及に努めていたことがこの大会の開催に繋がったのだと思います。

次にこの大会の歴史を振り返ってみましょう (p. 98)。いま申し上げたとおり最初が1998年。第1回大会が始まりました。第1回大会の出場チームを見ていただくとわかりますが、「大広ケリマッセ」というチームが出ています。これは中村恭平さんのチームで、本日はペスカドーラ町田さんもこのミーティングに出席いただいています。この時のチームには甲斐修侍さんもメンバーとして参加していらっしゃいましたし、元日本代表の市原誉昭さんも入ってました。何と言いますか、強い相手を求めて韓国に乗り込んだというのが第1回の成り立ちです。第2回、第3回を見ていただくとわかりますが、2007年にFリーグができてブレイクするまでは、日本でも名の知れたチームが出場しています。カスカヴェウ、ウイニングドッグ、森のくまさん・・・いまのフウガの前身の前身ですね。BFC KOWAは大泉のブラジル人チーム。LMFCは千葉県リーグ、カフリングさんも関東リーグでがんばっています。・・・と、このようなチームが出ている大会です。

さてU-18に関してですが、2011年の第14回大会にプレ参加・・・公式な派遣ではなかったので「東京ユニテッド」という名前で遠征しています。翌2012年からは毎年、公式の韓国遠征が認められ「東京都ユースU-18フットサルリーグ選抜チーム」として8年連続で参加しています。残念ながら2020年の第23回はコロナ禍で中止になってしまいましたが、2021年12月には第24回が・・・できるかどうかまだわかりませんが予定はしております。

正式に海外遠征するためには、手続きとして韓国側から正式な招聘状 (p. 99) をもらってJFAに申請します。申請すると・・・直近のものがなかったので第1回の公式遠征の時のJFAからのレター (p. 100) を添付していますが・・・東京U-18フットサルリーグセレクションチームは遠征していいですよ という承認を当時の大仁会長からもらっています。(p. 100はKFA会長あて／英語、p. 101はTFAあて／日本語) 高校生たちに公式遠征である証拠としてこのレターを見せると、それだけでも緊張感が高まり、大人があなたたちのためにこうやって準備しているんだよってということが伝わることで、彼らにとっても良い経験になったのではないかと思います。

次に韓国遠征でどんなチームと試合をするのかをみてもらいたいと思います (p. 102)。韓国フットサル連盟の傘下で三つの全国大会が行われています。屋外で開催している場合もあるようですが、それらの大会の優勝チームまたは優勝に準じるチームがこの大会に出場してきます。東京選抜はそのようなチームと対戦するのです。

韓国側の大会名を見るとフェスティバルという名前のももあるし、文化体育観光部長官杯全国大会というのもあります。いろいろな組織が全国大会をやっているという点では日本とは違いますね。韓国のチームの特徴としてはフィジカルが強い、シュートがうまいなどサッカーと似た印象で、日本のチームが一所懸命にボールを回して得点しても、一発シュートを入れられて逆転負けという試合がしばらく続きまし

た。しかしFKリーグという韓国のフットサルのトップリーグができてからは、下部組織との連携も進みました。（FKリーグは2009設立）

韓国フットサル連盟は、当初は変わったしくみになっていて、エリートと草の根の連盟が分かれていました。なので、草の根チームでいくら頑張っても上には引き上げてもらえないというような、いびつな形になっていました。それが4年前に統一され、いまは風通しが良くなってきてフットサルらしいプレーをするうまい子たちが出てくるようになりましたが、まだまだフットサルでは日本の高校生のほうが上ですね。大会成績をみてもらうとわかりますが、公式遠征8回のうち3回、東京都選抜が優勝しています。試験期間と重なりベストメンバーが組めなくても上位には入っているので、最高のメンバーで行けばおそらく勝てるんじゃないかと思っています。

2019年の第22回大会は、初日に2敗してしまって調子が出ず、最後3位決定戦をPK戦でなんとか勝ったのですが、彼らにとってはいい経験だったんじゃないでしょうか。

大会の雰囲気写真を写真で見て頂きたいと思います（p. 103）。まず金曜日の夜、授業が終わった後で羽田空港に7時45分に集合し、10時半ぐらいのフライトで金浦空港に飛びます。その日ソウルに着くともう11時過ぎなのでホテルに入ると12時を過ぎています。そのためこの時間帯の写真はありません。

翌日は朝7時にホテルを出て横城に向かいます。会場は横城国民体育センター。FKリーグで使っているフットサル専用の体育館です。日本にもこういうものがほしいですね。フットサル専用なので大会準備が楽ですからね。さて、開会式では日韓の国旗を掲げて国歌斉唱。国会議員が来たり市長が来たり知事が来たりします。朝寒いので長時間、話をきかされる選手たちは大変なんですけど、国歌がかかり、国旗を見ながら胸に手を当てるのは彼らにしては初めての経験だと思うので、これも国際大会の良い所だと思います。

そして日韓の選手代表による選手宣誓。この時は瀬戸さんが監督でしたが、即席の選抜チームなのでまとめるのが大変そうでした。・・・とこんな感じで試合が始まります。

昼食は会場近くの食堂で食べます。ガイドさんに連れてもらって韓国の食事をしている風景です（p. 104）。それから同世代の韓国チームとの交流。日本人の選手で韓国語を話せる子はいないんですけど、たまに向こうに日本語を話せる子がいたりします。しかし今はスマホが発達しているのでゲームの話とかで盛り上がっていました。彼らなりのコミュニケーションツールがあるみたいですが・・・。何か楽しそうにやっており、僕たち大人はそこには入れませんでした。

大会初日が終わった後、夕食で大人のチームの選手たちと一緒にプルコギを食べながらお話をしているところです。大人チームには有名な選手もいるので、話しかけたりしていました。このプルコギのお店は毎回使っています。美味しいと評判で、本当は韓国のご飯は銀の器に入って一個ずつ出てくる（有料）のですが、毎年訪れるので、このお店では日本の高校生は食べ放題ということになりました。

大会2日目（最終日）はもう帰る日です。だいたいお昼ぐらいまでに決勝が行われ、続いて表彰式となります。日本からの来賓で東京都連盟会長の梶野政志さんがここにいます。表彰式では梶野さんもプレゼンターを任されています。表彰式を終えて全大会日程が終了すると、いろんなチームの選手たちと写真と撮ったりした後シャワーを浴びて帰ります。2時ぐらいに会場を出発してそのまま空港へ。日本に着くのは6時半から7時頃です（p. 105）。韓国遠征の概要は以上です。

最後になりますが、私は1998年の第1回大会からキム・デギル会長との出会いもありこの日韓親善大会
って関わり続けているのですが23年やっていた関係で、2016年に韓国フットサル連盟の名誉理事に指名さ
れ、いまはこのような日韓のフットサル交流や文化交流にも関わる立場になりました。

この大会は東京のチームだけが招聘されるものではないので、いまこのミーティングに出ていらっしや
る他県のユース年代の関係者がおられれば、是非エントリーを考えていただければと思います。その際は
招聘状をもらって遠征できるよう手続きなどお手伝いさせていただきます。ぜひこのような国際経験を、
多くの若い子たちに経験させてあげたいと思います。現在、この大会は12月に行っていますが、U-18のチ
ームが増えれば開始時期を他の時期に変えてチーム数を増やすこともできますので、是非皆さんの力をお
借りして遠征を続けていきたいと思います。ありがとうございました。

中塚：貴重な報告をありがとうございました。日韓交流のことはもちろん知っているし報告書もいただい
ていますが、こうして改めてお聞きすると、すごく貴重な機会になっていると感じます。

有吉さん、選手を派遣する立場から、選抜チームの活動について補足していただけないでしょうか。

有吉：韓国遠征は、まず一番の問題は時期なんですね。12月第1週は、高校生はほぼ全員テスト前、もし
くはテスト期間中で、正直言って誰も行けない時期がありました。「誰か行けよ」みたいなときもあっ
たし、逆に海外なんでそれが魅力で選手が集まった年代もあります。けどやっぱり試験なので行きたく
ても行けないということが多かったですね。

全国選抜大会ができたあたりから、ユースリーグの方でも選抜活動に力を入れようと、少しずつ整備を
始めました。私の構想では、3年生の選抜トップチームはGAVICカップ選抜大会に出る、その予備段階と
して、もしくは選抜Bチームで韓国遠征に行く。韓国遠征に行ったメンバーを主軸として翌年、3年次の
選抜大会を組むというローテーションにするというものでした。韓国遠征に参加するということは、3
年の選抜大会に出ることの大きなきっかけになるイメージで作り上げていこうとしていました。しかし
やり始めたころに選抜大会がなくなってしまい、2年のローテーションで東京都選抜を作っていく構想
が正直言って崩れてしまったところです。韓国遠征チームは東京都選抜のトップが入っているとは限ら
ないのが現状です。セカンドの2年生以下のチームのこともあります。

韓国遠征報告でよく出てくるのが、フィジカルの差というところです。監督からの技術レポートにも書
かれています。ボール回しては日本の選手の方がうまいけど、球際で負けているので優勝回数としては
そんなに多くない。うまい方は日本だけど勝つのは韓国だというような、そんなレポートを何回か報告
書の中で見た記憶があります。こういう時期なので選抜チームの派遣はできませんが、せっかく続いて
いる事業なので、これからもリーグ選抜をしっかりと作って発展させられたらなと思います。

中塚：ありがとうございます。選抜の活動って大事ですね。

有吉：そうですね。さっきも言ったように、韓国遠征ってお金がかかってくる分、最初のころは選ばれた
という感覚が薄かったんです。最初は「行きたい人」って手を挙げた人を連れていくようなところもあ
りました。そこから「選ばれたんだよ、君は」と変えた段階で、選手たちは生き生きしていましたね。
こっちが選んであげた。「誰か行かないですか」って手を上げさせたのではないというところ。そして

先ほど徳田さんが言われた、協会から派遣されていることなどをみせたときにモチベーションは変わるんですよね、高校生年代って。そういうのが感じられました。

4. Fリーガー～日本代表に羽ばたいたプレーヤー（中塚義実）

このように海外への展開も視野に入れながらやってきたU-18フットサルですが、男子の話題をもうひとつ。このような活動を10年、20年もやってくると、選抜の活動や、それぞれが力を発揮できる場所を見出して活躍する者もいます。

2007年度からFリーグが始まりました。漏れがあるかもしれませんが、右に挙げたプレーヤーが、東京都U-18リーグで育ってFリーグで活躍しています。このほか特別指定選手もいます。「※」がついている清水和也君は、日本代表の若きエースとして活躍しています。「フットサルナビ」の最終号の表紙も彼でした。彼については、フットボウズが國學院久我山としてのぎを削っていた頃の印象が強いですね。むしろお兄ちゃんの清水誠也君が久我山との試合後、筑波大附属の体育館で悔し涙を流していたのを覚えています。和也君が高校に入ってきて2人がフットボウズにいたときに久我山を破るかなと思っていたら、確か和也君が怪我して出られなかった時があったんですよ。そんなことを覚えています。

もう一つ、アンダーカテゴリーの日本代表も組織されるようになり、アジアの大会で活躍しています。AFCのU-20フットサル選手権が、2017年はタイで開かれました。日本はベスト8になりましたが、先ほどの清水和也君、府中の山田正剛君、フットボウズの岡部直樹君が選ばれています。

もう一つ、アンダーカテゴリーの日本代表も組織されるようになり、アジアの大会で活躍しています。AFCのU-20フットサル選手権が、2017年はタイで開かれました。日本はベスト8になりましたが、先ほどの清水和也君、府中の山田正剛君、フットボウズの岡部直樹君が選ばれています。

その2年後、イラン2019大会では日本が優勝し、そこにこういった人たちが選ばれています。いい写真があります。優勝トロフィーを掲げているのは畠山君ですね。そして大澤君は、大会MVPに選ばれました。西東京市に掲げられた横断幕です。

西東京市が生んだ英雄ですね。小学校と中学校、そしてZOTTO WASEDAでプレイしていることも示されています。このようなことが市民に紹介されるようになったということです。このあたり、選手の活躍に絞って補足してもらえるとよいのですが。山野さんどうでしょう。

山野：先ほども言いましたが、東京のレベルが高く、こういう選手たちがいて切磋琢磨できる環境があるからこそ、

アンダーカテゴリーの日本代表

AFC U-20フットサル選手権 イラン2019（優勝）

- ・高橋 裕大（町田）
- ・本石 猛裕（町田）
- ・畠山 勇氣（フウガ）
- ・大澤 雅士（ZOTT）
- ・毛利 元亮（町田）※

※予選出場



AFC U-20フットサル選手権

- ・山田 正剛（府中）
- ・清水 和也（FOOTBOZE）
- ・岡部 直樹（FOOTBOZE）



Fリーガー～日本代表に羽ばたいたプレーヤー

○フウガドールすみだ

- ・清水誠也（FOOTBOZE）
- ・清水和也※（FOOTBOZE）
- ・畠山勇氣（フウガ）
- ・鈴木翔太（フウガ）
- ・垂井斗我（フウガ）
- ・甘利斗亜（フウガ）

○ベスカドーラ町田

- ・毛利元亮（町田）
- ・倉科亮佑（町田）
- ・甲斐稜人（町田）
- ・雲切啓太（町田）
- ・高橋裕大（町田）

○府中アスレティック

- ・南雲颯太（FOOTBOZE）
- ・茂呂翔也（フウガ）
- ・山田正剛（府中）

（U18リーグの所属チーム）

※日本代表



良い選手が出て来るのだと思っています。選抜チームで顔を合わせ、代表でも顔を合わせている中で、コミュニケーションもよくとれていると思います。いまのチームの選手たちをみても思いますが、他のチームの選手とも仲がいいですね。このような横の関係ができているのも素晴らしいと思います。代表レベルでも、こういう関係の良さが生まれていけばレベルも上がっていくのではないのでしょうか。あの選手が代表だとか、この間試合した選手がトップチームでやっているとか、すごい刺激になると思います。遠い世界の話じゃなくてより近くに感じられるのではないのでしょうか。

中塚：ありがとうございます。東京の場合はチーム数も選手数も多いので、ぜひこういったタレントをしっかり伸ばしてあげたいなと思います。

ここまでで男子の話は一旦終了です。そのまま女子の話に移りたいと思います。

Ⅲ. 東京都における女子のフットサル (中塚義実)

1. 女子ユースフェスティバルとSHIBUYA109

スライドをご覧ください。2000年度ですから、男子のU-18大会が始まるちょうど1年前、筑波大学附属高校の体育館で「第1回東京都女子フットサル大会」が開かれたのを覚えています。同年開催された全国大会「ティファールカップ」を機に、都内完結ではありますが大人の女子大会として始まったものです。そしてそこにいくつか高校生年代の女子チームが参加していました。その後も毎年、高校女子チームはこの大会に参加します。

第4回大会に「ハロープロジェクト」のチームが参加することになり、対戦相手の肖像権問題とか、いろいろクリアしなければいけない問題があったのを覚えています。筑波大学附属高校では女子チームの保護者会まで開きました。

いずれにしても、この頃は大会といっても大人の大会なので、高校生チームは負け続き。同世代と試合がしたいの思いから、高校生自身で女子高生大会を作りましたという話が、U-18フットサル10周年記念誌に載っています。

その後、2012年度に東京都女子ユース大会のプレ大会を開催します。女子の場合はU-15とU-18の体力差がほとんどないことから、同じ大会にしました。2013年度からは公式大会として「第1回東京都女子ユースフットサルフェスティバル」という名前でスタートし、2017年度の第5回大会から「SHIBUYA109ガールズフットサルカップ」の冠がついて盛大に行われるようになりました。女子高生大会は招待大会として、各校独自に単発で開かれています。そしてリーグ創設に向けてどうするか、といったところです。

私の方で写真をいくつか用意したのでそれをみてもらってから角脇さん、石井さん、速水さんらに補足していただきたいと思います。

右のスライドが、2012年度のプレ大会を含めた東京都女子ユース大会の決勝です。ご覧の通り、十文字中学校の世界ですね。2017年度(2018年1月)の第5回大会よりSHIBUYA109ガールズフットサルカップとなったのは先ほど申し上げた通りです。なお十文字中学は、JFAのU-15女子大会で2014年度、2017年度、2019年度と全国優勝しています。

SHIBUYA109が冠に付くとメチャクチャ華やかです。男子のU-15、U-18フェスティバルが「フィスコフットサルアリーナ」としまえん」の寒いところでやっていると、女子はこのような華やかな中

で大会ができるようになりました。109の社長も開会式で挨拶してくれます。着ぐるみのキャラクターと

東京都の女子ユースフットサル

- ◆2000年度 第1回東京都女子フットサル大会開催
(筑波大学附属高校体育館)
- ◆2003年度 第4回大会に「ハロープロジェクト」参戦
(2004年3月27日 於府中市総合体育館)
- ・大人の大会に出ても負け続き。同世代と試合をしたい！
・自分たちで「女子高生大会」創設(U-18フットサル10周年記念誌)
- ◆2012年度に「東京都女子ユース大会2012(プレ大会)」開催
女子の場合はU-15とU-18に差がみられないことから同じ大会に
- ◆2013年度 第1回東京都女子ユースフットサルフェスティバル
- ◆2017年度(2018年1月28日)の第5回大会より、
「SHIBUYA109ガールズフットサルカップ」となる
- ・女子高生大会は招待大会として単発で開かれる
- ・U-18&U-15女子リーグ創設へ向けては...

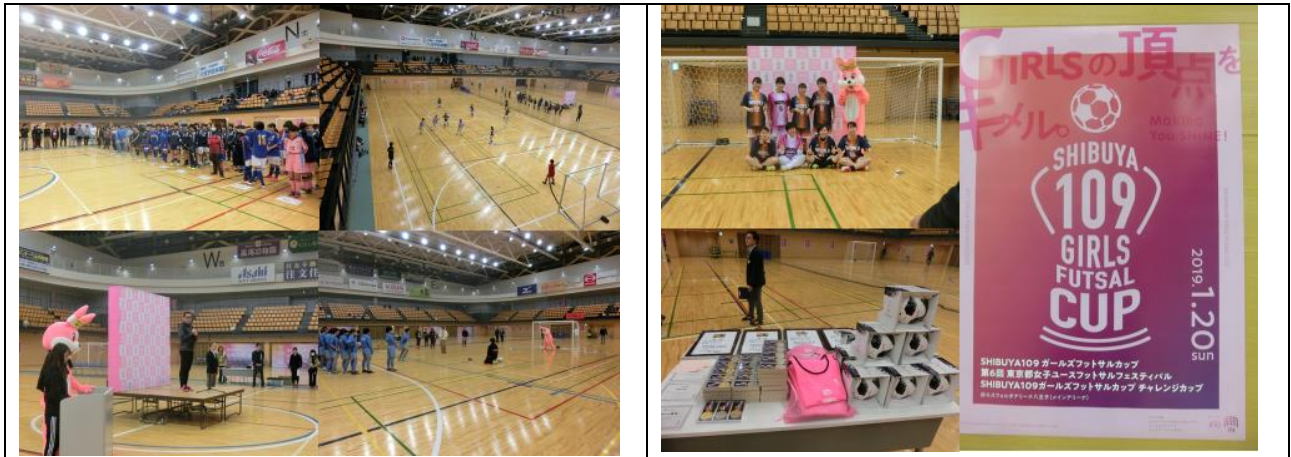
SHIBUYA109ガールズフットサルカップ 東京都女子ユースフットサル大会

年度	回数	チーム数	優勝	決勝スコア	準優勝
2012	プレ大会	8	十文字中学校	5-0	文京AFC
2013	第1回	12	SOCIOS FC U-18	4-3	SOCIOS FC U-15
2014	第2回	9	十文字中学校	13-0	北区さくらガールズ
2015	第3回	12	ASUKA	11-5	十文字高校
2016	第4回	10	十文字中学校	9-0	FC町田ボニータ
2017	★第5回	12	十文字中学校	9-0	錦城高等学校K
2018	★第6回	12	FC 駒沢女子	3-1	FC ARMADOR
2019	★第7回	12	十文字中学校	11-0	町田ボニータchica
2020	★第8回	12	中止		

※2018年1月28日の第5回大会より、
「SHIBUYA109ガールズフットサルカップ」となる
※十文字中は、JFAU-15女子2014、2017、2019年度で全国優勝！

のPK勝負もあります。もちろんフットサルのゲームは盛り上がります。商品までいっぱいあります。こんな感じで大会が行われています。

ではこの大会に109がつくようになった経緯など、TFA事務局の角脇さんからお話しください。



角脇：まずこの大会、第4回までは女子も男子と同じ日に一緒に行っていたと記憶しています。男子の横で女子が試合している、男女の大会が両方みられるメリットがありました。一方で、第4回までみていた中で、十文字中学校など、ある程度チームが固定されてきました。また、例えば12チーム募集したとしても、うち3～4チームは同じクラブから出てくるような状況で、競技としての魅力はあるものの、新規で入ってくるチームを受け入れるにはもう少し魅力の出し方を工夫しなければと思っていました。

そのころご縁あって、(株)SHIBUYA109エンタテインメント（以下109）の社長と話をする機会がありました。先方も「making you shine」という理念を掲げ、女性を輝かせるイベントを模索していたところで、女子中高生のフェスティバルにすごく興味を持ってくださいました。加えて社員の皆さんも、このような大会の運営をすることで社会貢献できます。そのような場を設けたいという意向もあり、大会運営の仕事は我々TFAで、それを盛り上げるエンターテインメントのところは109が関わっていくことでこのフェスティバルができ上がりました。

会場に来ていただいた方はわかると思いますが、商品提供やPKイベントもやり、気の利いた音楽がずっと流れています。他の競技会ではみられない、フェスティバル感を視覚や聴覚などの五感に訴えかけるようなフェスティバルに徐々になっていくところです。今年度は実施できなかったのですが、過去3回、109に協賛に入っていた結果、社員の方もすごくフットサルに興味を持たれて、昨年度はフェスティバル終了後に社員の方皆さんで親睦フットサルをされていました。社員の方も楽しんでもらえるようになってきていると思っています。

もう一つの目的として、競技としてずっとフットサルをされてきた方だけでなく、初めて参加されるような方と一緒に場でプレイしてほしいというのもありまして、109に協賛いただき始めて2回目の大会からは、109主催で「エンジョイプレイヤー向けのチャレンジカップ」も実施するようになりました。12歳以上から25歳までの女性を一般募集して、フットサルもしたことない、ユニフォームを持っていないしシューズもない方も集まり、十文字中学校などが試合している横でゲームを楽しんでもらっています。フットサルプレイヤーとボールの蹴り方もわからない方々が同じ会場で試合をすることで、お互い

に刺激しあえる環境を作りたいというのがあってこのようにしました。初めての方は、こんなにうまい選手がいるんだと思いますし、今まで競技としてされてきた方は、勝利を目指すというよりも楽しくするフットサルがあるんだということに触れる機会になり、双方に刺激が生まれたと思っています。今年度は中止になりましたが、来年度以降も引き続き開催しつつ、裾野を広げるフェスティバルにしていただければと思います。

中塚：ありがとうございます。

石井さんは錦城高校で、男子はもちろん女子のフットサル大会にも参加されています。このあたりでコメントいただけますか。

石井：いま私の横に、もう一人の顧問の先生がおられます。先生が赴任された年にはじめて決勝戦まで行くことができました。当時を振り返ってみると、男の子たちは公式戦がありましたが女の子たちはほとんど公式戦がありません。この大会以外になりますと、筑波大学附属高校の速水先生がよくご存じですが、民間のフットサルコートで開催している大会に何となく集まってきて、その年の一番を決めようとかいうことが多かったと思います。なので東京都女子ユース大会もそうですが、109が協賛に入ってくださり本当に華やかになり、これが一つの目標になっています。今日はZoomに女子高生たちも参加していますので、あとで振ってもらえるとありがたいです。

中塚：それでは、お名前もあがりましたので速水先生から、東京都の女子ユースフットサルのあゆみからリーグ立ち上げへの苦難の道のりのあたりをご紹介いただけないでしょうか。

2. U-18女子リーグ導入へ向けて（速水高志）

私が筑波大学附属高校の女子蹴球部でフットサルに関わるようになった2005年頃から今までを、1枚のスライドにまとめました。ある学校からみた東京都の女子フットサルということでお付き合いください。

最初の話にもありましたが、そもそも高校生女子のフットサル大会がなく、本校の女子蹴球部は大人の民間のレディース大会にたまに出るような形でやっていました。2008年に自分たちで高校生を集めて大会をやろうということで「女子高生大会」という名で自主開催を始めました。年に2～3回、本校の体育館で、チーム数は最大で16チームぐらいまで来たときもありました。そのときは、外のグラウンドと屋外バスケットコートも使い、1次ラウンドは外でやって、決勝ラウンドを体育館でやるという形でワンデー大会を、自分たちで組み合わせ表を作り、タイムテーブルを作ってやっていました。これが2008年頃からです。

この流れが、いまだと富士見中学高校さんとか、埼玉の武南高校さんとかが中心になって大会をやるという流れになり、ちょっとずつ広がっています。自分たちで大会を主催すると、大会運営にいかにより多くの人が協力してできているのかわかるので、運営に回った

2005～2019年までの大まかな流れ

- 2008 女子高生大会を自主開催開始
- 2010 女子中高生大会PEACH CUP開始
- 2013 東京都女子ユースフットサル大会開始
- 2014 HONDA CUP U-18女子開始
- 2016 首都圏女子フットサルリーグ開始
- 2019 第1回高校生女子フットサルチャンピオンシップ開催
東京都女子ユースフットサルリーグプレ大会開催

子たちがすごく成長するという話はよく聞きます。大変ではありますが、やりがいはあっていいなと思っています。

2010年頃からPEACHカップという、聖蹟桜ヶ丘の京王百貨店の屋上にあるフットサルコートで、3の倍数の月の第3日曜日あたりに定期的に女子中高生フットサル大会が開かれていました。第1回大会で本校が優勝しましたが、そこからずっと勝てていません。東京及び埼玉、横浜など神奈川の学校も出るようになり、最大で16～20チームぐらいがフットサルコートに集まってワンデーでやっていました。これが年4回やっていたので、学校あるあるですけど、テスト期間と重なることもあり、前後期制の学校と3学期制の学校で日程が違ってたりするので毎回出るわけにはいきません。けど年1～2回は出られるかなという感じで、女子中高生のフットサルをやっている部活のチームにとってはすごくありがたい大会でした。

これが施設の都合でなくなってしまったんですね。それが2016年の首都圏女子フットサルリーグにつながっています。定期的に出られたワンデー大会がなくなったのでリーグ戦をやろうという話になってきます。当時は10チームぐらい参加してやりだしたのですが、リーグとなるとやはり女子高生では運営が難しく、大人の方々もそこまでガッツリ関わられるような人がおらず、審判も自分たちではできないのでリーグから派遣してやってもらったりしましたがそれもなかなかうまくいきません。2018年ぐらいまではやっていたと思いますが、リーグとしてはいま活動できていない状況です。

女子のU-18年代の全国大会は、実はないんです。U-15女子の全国大会はありますが、U-18はありません。U-18女子が唯一全国に繋がっているのが、2014年にはじまるホンダカップです。いまはフットサルフェスタと名称が変わっていますが、昔はレディースカテゴリーしかなかったのが、関東中心にフットサルを部活でやっているチームが結構できてきたのでU-18の女子のカテゴリーを作ってもらえませんかということを本多さんに交渉し、立ち上げていただきました。これが唯一、U-18女子フットサルの全国大会となっています。

2019年のところに書いてあるものは、本校の女子蹴球部も錦城高校さんも同じですが、大人の大会、東京都女子フットサル大会とか全日本女子フットサル大会東京都予選など、大人のカテゴリーの東京都予選が一番大きい大会と捉えていて、そこで1次ラウンド突破して2次ラウンドに行こうっていうのが大きな目標として活動していました。ところがそれが、エントリーすらできなくなってしまった。レギュレーションの変更でリーグに加盟していないと出られなくなり、去年卒業した3年生の代は、2年から3年に上がる時に、3年生最後の大会として出ようと思っていた大会に出られなくなってしまいます。それを春休みの段階で知らされて、やり場がなくなったんです。

先ほど紹介のあったSHIBUYA09の大会も、U-15とU-18と一緒にされていますが、U-15の子たちはゴールデンエイジをサッカーで過ごしているようなバリバリのサッカー少女たちです。一方、うちの学校や錦城高校さんは、中学校時代「文化部でした」みたいな子が、高校に入ってから「フットサル面白そう」で入ってきた子たちです。学年に一人か二人、サッカー経験者がいるかどうかです。そういうチームなので、バリバリやってきた中学生の女の子たちにコテンパンにされるんです。なので、高校の部活としてフットサルを頑張ってきた子たちのガチンコの間を作ろうということで、墨田の体育館を借りまして、2019年のゴールデンウィークに6チーム集めて総当たりで、女子高校生フットサル部のチャンピオンを決めるような大会をやりました。すごく満足度が高く、こういう形でフットサルをガチンコでやれるのが良かったと、他の学校の先生方からも感想を伺っています。

最後に、東京都女子ユースフットサルリーグプレ大会というのは、フットサル連盟マターでU-18女子ユースリーグを立ち上げるにあたり、いきなり立ち上げるのは難しいのでワンダー大会を1回やってみたらどうですかということ、本校の体育館で2019年11月に開催したものです。大会自体はいつものミニ大会みたいな感じで滞りなくできたと思いますが、連盟の方からは「リーグ立ち上げはもう一年待ったほうが」みたいな感じで言われ、そのままになっています。こちらからするとすごいガッカリでした。

ユース年代の女子フットサルは結構チーム数が多いんです。東京だけでも部活動として行っている学校は四捨五入すれば20校ぐらいはありますし、神奈川県はU-18リーグがあるぐらいです。学校数も結構あるし、小・中ではやっていないけど高校からやってみよう、体育の授業でやってみたら面白かったからやろうかな、というように、需要は結構あると思います。これからどのように部活として、あるいはチームとしてどこを目指してやるかというところが見えてこないのがもどかしいと感じています。

いままでの東京都女子ユースフットサルについて、うちの学校からみた感じを述べました。以上です。

中塚：ちょうど2008年の女子高生大会のところが、10周年記念誌で紹介された取り組みです。そしていま速水さんからお話があったように、2019年の第1回高校生女子フットサルチャンピオンシップ開催の経緯は、これまで大人の大会に出られていたのが、リーグ加盟していないとダメとなったことがきっかけとなっています。このあたりについては私もよく覚えています。「なんじゃそれ？」っていう話が急に出てきて、最終学年を迎える高校生には、自分たちが目標としていた大会が失われたわけですからね。コロナとは別の理由で。

IV. 「Withコロナ」から「Afterコロナ」へ

ーこれからのU-18フットサル（ディスカッション）

中塚：残り15分です。時間があればいろんなテーマでディスカッションしたいのですが、今日の最後の落としどころは「次の10年はU-18女子のフットサルに力を入れる」ところに持っていきたいと考えています。錦城高校の生徒もいるようですので、女子高生の意見も聞きながら進めていきたいと思います。女子フットサルの今後の展望を含め、ご意見ある方はお願いします。ここで画面共有を停止します。錦城高校の生徒さんが入っているのでしょうか。毎年高校3年生をどこまで引っ張るかという話が出てくるんですが、当初5～6月あたりに109カップができないかと言っていたのですが、体育館が全然取れなくて、今年は10月17日にやることになりました。先ほどの話の中で、第1回と銘打って2019年に行った「高校生女子フットサルチャンピオンシップ」は5月の連休ですね。やはりそのあたりで、高校3年生の目標となるような大会が、協会主催じゃなくて自分たちの手作りでもできるといいですよね。錦城高校の平野さん、どうですか。コロナ禍で何もできなかったこの一年を振り返り、次に高校3年生になろうとするこの時期に、フットサルとどう関わるかを女子高生はどのようにみているのでしょうか。

石井：4月からの新3年生よりも、一学年上の、この春で卒業する子たちが可哀想だなんてみんなで思っていたんです。最後の大会を失ってしまい。けどここまで状況が悪化してしまうと、この春からの新3年生は8ヶ月くらい緊急事態宣言が出ていて、ほぼ部活をしていない状況なので、どこにモチベーションを置いていけばいいのか戸惑っているというのが、フットサル部に限らずどこの部でもあります。平野さん、ミュート解除できましたか？ 率直な感想でいいから、コロナ禍で部活動があまりできなかったことと、これから3年生になってどうなったらいいか、願望でいいので教えてください。

平野：さっきの話を聞いていて共感したことがあって、筑波大附の顧問の速水さんの話の中で、東京都の女子高校生のフットサル部が出る大会がもっと増えれば、生徒のモチベーションがもっと上がっているのかなというふうに思います。

中塚：そういう大会がいつ頃あったらいいと思いますか？

平野：4月からマジで部活動ができるようになったとしても、新しく入ってきた1年生もいまの2年生もほとんどフットサルにちゃんと触れてこれていないので、夏あたりにあれば、部活をある程度やれていい感じになるんじゃないかなと思います。

〇〇：平野さんも言っていた通り、まだフットサルを始めて1年とか2年とかの私たちがクラブチームの人たちとタイトにはやっぱり戦えないので、負ける前提でって言ったらおかしいけど、あんまり勝てる見込みがない中で戦うのもなんかうーん、あんまり練習の成果がはっきり出ないような気がします。

△△：二人と同じで、同じ土俵で戦う高校生でのチームどうして戦いたいなっていう気持ちはあります。

石井：それは他の運動部みたいに、高体連のような組織でなんとか高校、クラブチームじゃなくて高校同士で戦いたいってということですか？

△△：そうです

石井：速水先生、筑波大学附属高校の生徒たちはいかがですか

速水：先日、テスト前に少しミーティングをやって、そこで話したのですが、3年生になって受験にビビっているんです。全然ビビる必要はないと思っているんですが、「何月ぐらいまでならできる？」って聞いたら、「できれば5月ぐらいで終わってほしい」と。本校は6月の一週目に「院戦」という、学習院高等科とすべての部活の総合定期戦があるので、全国大会レベルにはいかないにせよ、大きなイベントで部活を終えるような子が多いので、そのあたりから一気に空気が変わるんですね。3年生がそれより前に終わりたいとよく言っているので、それに合っているなという感じですね。たださっき言っていた、唯一全国大会につながっているホンダカップ、いまのフットサルフェスタですけど、その全国大会は8月の夏休み中にあるので、二階堂高校さんとか埼玉の武南高校さんは全国に行っているので、夏まで部活をやるというのを経験しています。夏の甲子園じゃないですけど、高3の夏を熱く迎えるようなことはあってもいいんじゃないかと思います。

中塚：ありがとうございます。もっとこの議論を深めたいところですが、都市大付属の田中さんもいらっしやいます。たぶんいまの話は男子の方でも同じじゃないかなと思います。つまり高校生がいつまでフットサルをやるのかという問題。そして今年はコロナ禍で、学校の部活がほとんど動けない半年があった彼らをどこまで引っ張れるのかということで、お考えがお聞かせください。

田中：本校の事例で言うと、コロナでできなかった時期があったことを逆手に捉えて、例年早めに「引退」して受験というムードがあったんですけど、いまの新高校3年生は全員が全日本までやると決めて覚悟を持ってやっています。コロナを逆手にとってできたかなと思っています。高校生もいるようですので、うちのいままでの卒業生の様子を見ると、部活動で最後まできちっとやりきった生徒は、大学入試においても力を発揮しているのは確実に言えることだなと思います。うちの部で東工大に入った生徒は最後までやっていた生徒です。やはり粘り強く頑張る力になっていたんじゃないかなと思っています。

中塚：ということで、ほぼ2時間が経過しようとしています。まだご意見、コメントをいただきたい方がいっぱいいるのですが、一人だけここで紹介させてください。小松章一さんです。フットサルの大会を、我々は企画する側です。そしてプレーヤーが参加し、指導者や審判がそれぞれの立場で関わります。けど大会運営となると、コートの設営だったり記録をとることなど、運営スタッフの方がいてくれて大会が成り立っています。そういうことをやってくださっている方が来られているので、ここまでの話を聞いて、感想でかまいませんので小松さん、コメントいただければと思います。

小松：2007年からTFAフットサル委員会の運営スタッフとして活動しています。かれこれ13～14年ですね。最初に中塚先生とお会いしたのもU-18の大会で、ずっと応援しています。大会のレベルは上がっています。最初は時間が全然ないとか道具が足りないとか、そういう状況だったんですが、最近ですと選手の皆さんも協力していただきスムーズに運営が進んでいると感じます。これからどんどん競技レベルも高くなり、逆に草の根というか、誰でもできるようなフットサルの環境が整えられればいいなと思っています。ちなみに私は明日、フットサルの審判講習を受けます。いま高校生の話が出ていましたが、ちょうど2007年にハロプロがフットサルをやると言って3年間ぐらい、女子の大会に出ていました。それを見て育ったお母さん世代が10年以上経っているの、子どもも大きくなり、フットサルをやらせる段階に来てると思います。見てきた人たちがどれだけフットサルをやらせてあげられるのか、興味深いところです。感想でした。

中塚：どうもありがとうございました。今日は20周年ということで一つの節目ではありますが、振り返る中で気づいたことを次の10年に活かしていくことが大切です。今日はキックオフの場でもありますので、特にU-18女子のフットサルを、TFAフットサル委員会の2種・3種部会の懸案事項でもあるので、何とか形にしていきたいなと思います。

ここに高校生がいますけど、大人がやってくれるのを待つのではなく、まずは自分たちで友だちをつくって連絡を取りながら「やろうね」って言ってやり始める。その思いが大事じゃないかと思います。男子のフットサルもそうやって始まっているわけですから。がんばって盛り上げていきましょう！

本日の内容は文字に起こしして、20年の記録とともに報告書にまとめます。冊子のかたちで配布しますが、予算がないのであまり多くは作れません。行き届かなかっただごめんなさい。けど何らかの形で中身を見られるようにしたいと思います。

最後に写真を撮って終わしましょう。